記者発表資料

平成２８年　２月１７日
国土交通省　福島河川国道事務所
福島県
東日本高速道路㈱東北支社福島管理事務所

# 東北中央自動車道　福島JCT～福島大笹生IC間 「秋の行楽シーズン前までに」開通します

## ～観光・農業の振興等に貢献します～

国土交通省、福島県、東日本高速道路㈱が事業を進めて参りました東北中央自動車道のうち、福島JCT（ジャンクション）から福島大笹生IC（インターチェンジ）までの延長1.4Kmが「秋の行楽シーズン前までに」開通する見込みとなりましたのでお知らせ致します。

あわせて、JCT、IC等の名称が決定しましたので、お知らせ致します。

**今回の開通によって、次の効果等が期待されます。**

効果１：温泉地や観光果樹園へのアクセス向上により、**観光・農業振興を支援**
効果２：福島西部地区工業団地へのアクセス向上により、**企業活動を支援**
効果３：県内有数のスポーツ施設へのアクセス向上により、**スポーツ交流拡大を支援**

### １．開通区間

**東北中央自動車道　福島JCT～福島大笹生IC（延長1.4Km）**

### ２．路線名及びJCT、ICの正式名称

路線名　**東北中央自動車道**（通称名：**東北中央道**）

（仮称）福島JCT　→　**福島JCT**

（仮称）大笹生IC　→　**福島大笹生IC**

### ３．その他

開通日、開通式典等の日時については決定次第、お知らせ致します。

＜記者発表記者会：福島県政記者クラブ、福島市政記者クラブ、山形県政記者クラブ
米沢記者倶楽部、山形建設業界専門紙＞


【　問　合　せ　先　】

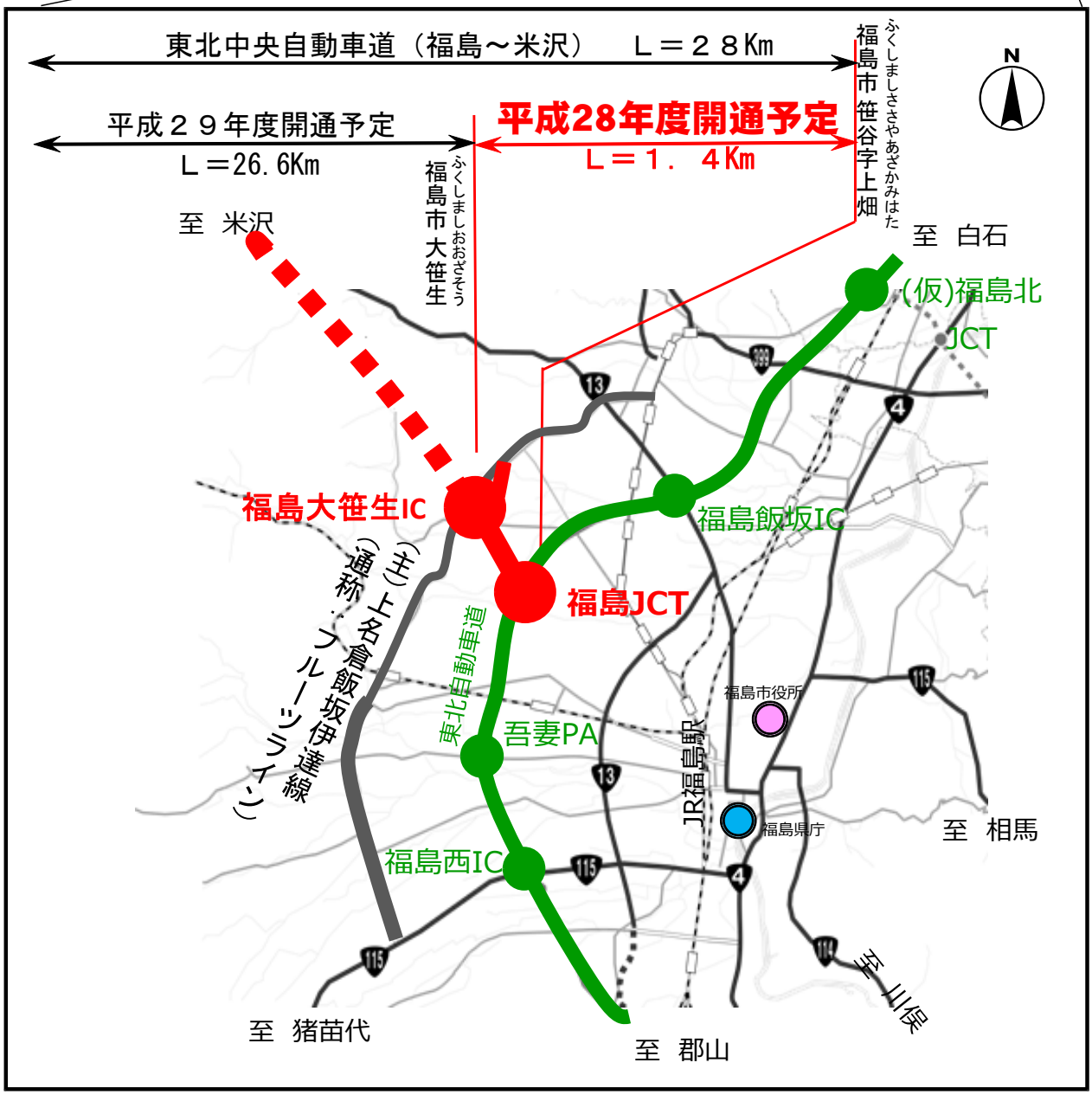
国土交通省 東北地方整備局 福島河川国道事務所　TEL 024-546-4331(代)
（道路担当）副所長　赤坂浩　（内線205）

福島県 土木部　高速道路室　TEL 024-521-7885(直通)
室　長　鈴木秀彦　（内線3580）

東日本高速道路㈱ 東北支社 福島管理事務所　TEL 024-542-0111(代)
（技術担当）副所長　林克之

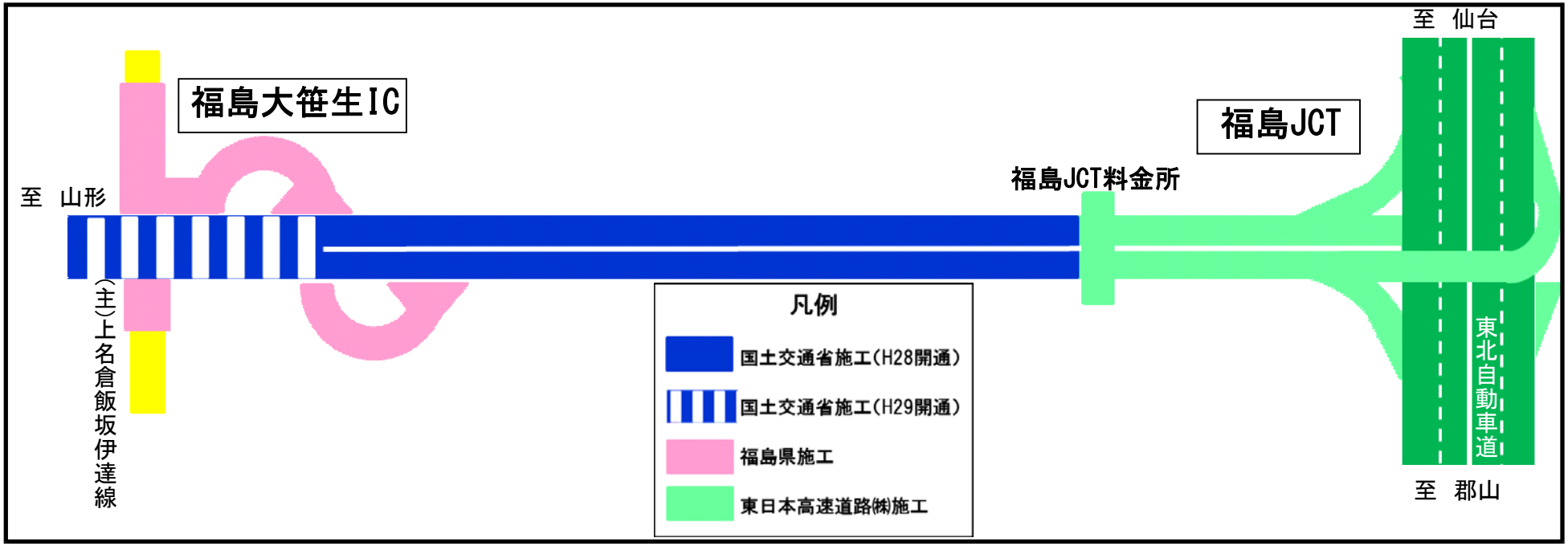
# 東北中央自動車道（福島～米沢）概要図



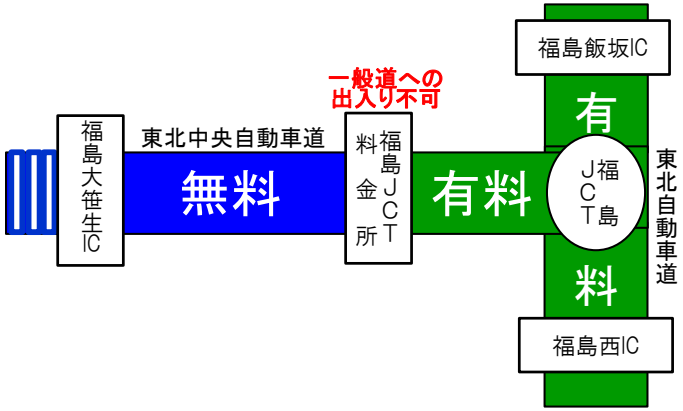




| 凡　例 | |
|---|---|
| ━━━ | 事業中（H28開通予定） |
| ■■■■■ | 事業中（H29開通予定） |

## 東北中央自動車道（福島JCT～福島大笹生IC）施工分担




## 【参考】東北中央自動車道（福島JCT～福島大笹生IC）料金区分

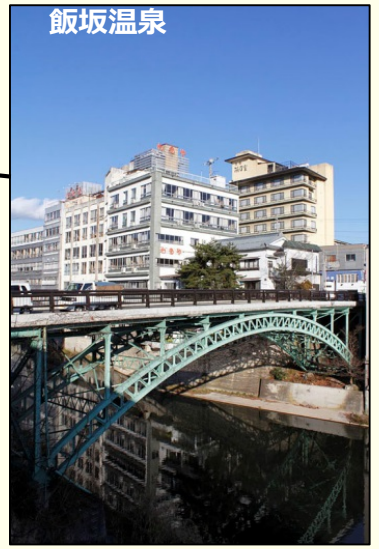



※福島JCT料金所では、一般道路への出入りができませんので、福島JCT料金所←→福島大笹生IC間の利用はできません。
※福島大笹生ICから入って福島JCT料金所を経由して東北道方面へ向かった場合は有料となります。

# 福島の魅力あふれる観光地へのアクセスが改善し、観光活性化に寄与（観光振興）

■福島市西部には、「くだもの狩り」、「飯坂温泉」など福島市の魅力あふれる観光地が集積
■震災後に減少した観光入込客数は近年は回復の傾向、福島大笹生ＩＣの開通で更なる観光活性化に寄与





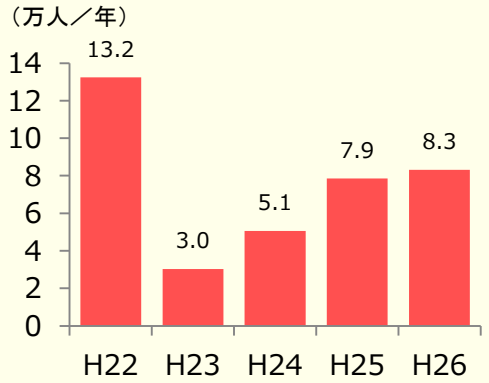






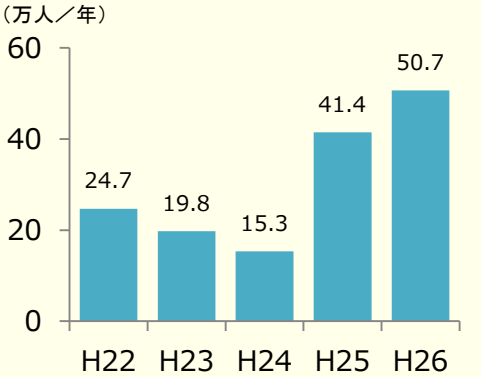


▼くだもの狩り観光入込客数の推移




出典：福島市農業振興課

▼十六沼公園観光入客数の推移



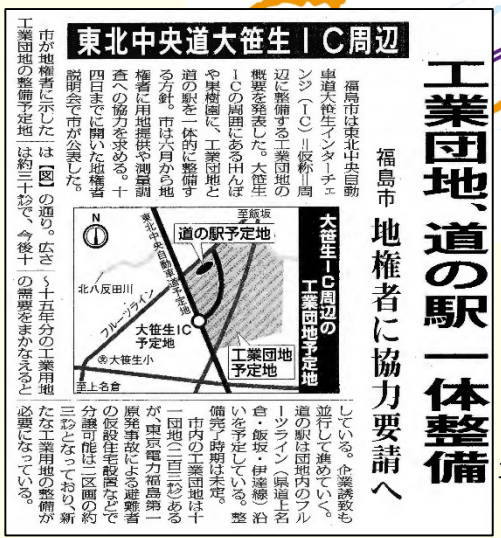

出典：福島市教育委員会保健体育課

# 経済の好循環をもたらす企業立地の支援（企業活動支援）

■福島市西部のＩＣ周辺には大規模な工業団地が立地し、製造品出荷額は福島市の４割を占める。

■東北中央道の整備に合わせ、福島大笹生ＩＣ付近に新たな工業団地造成を進め、さらなる企業立地を促進



東北中央道大笹生ＩＣ周辺

# 工業団地、道の駅一体整備

福島市　地権者に協力要請へ

福島市は東北中央自動車道大笹生インターチェンジ（ＩＣ）＝仮称＝周辺に整備する工業団地の概要を発表した。大笹生ＩＣの周囲にあるＨＩんぼや果樹園に、工業団地と道の駅を一体的に整備する方針。市は六月から地権者に用地提供や測量調査への協力を求める。十四日までに開いた地権者説明会で市が公表した。

市が地権者に示した工業団地の整備予定地は【図】の通り。広さは約三十㌶で、今後十～十五年分の工業用地の需要をまかなえるとしている。企業誘致も並行して進めていく。道の駅は団地内のフルーツライン（県道上名倉・飯坂・伊達線）沿いを予定している。整備完了時期は未定。

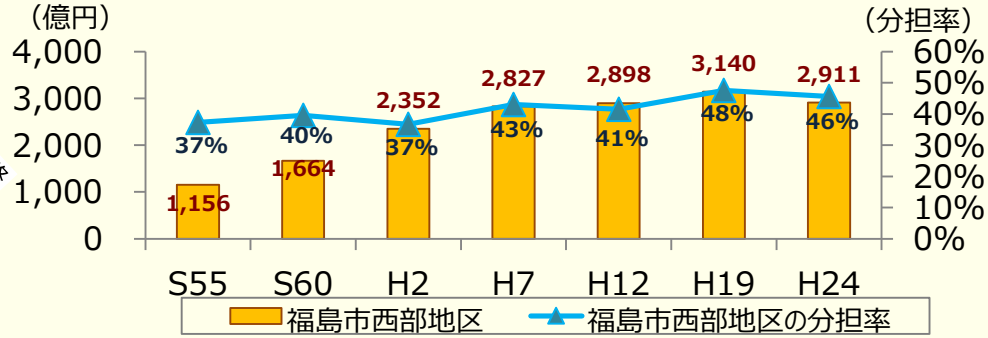
市内の工業団地は十一団地（二百三㌶）あるが、東京電力福島第一原発事故による避難者の仮設住宅設置などで分譲可能は二区画の約三㌶となっており、新たな工業用地の整備が必要になっている。

大笹生ＩＣ周辺の工業団地予定地



平成27年4月15日（水）
福島民報　6面

▼福島市西部地区の製造品出荷額の推移

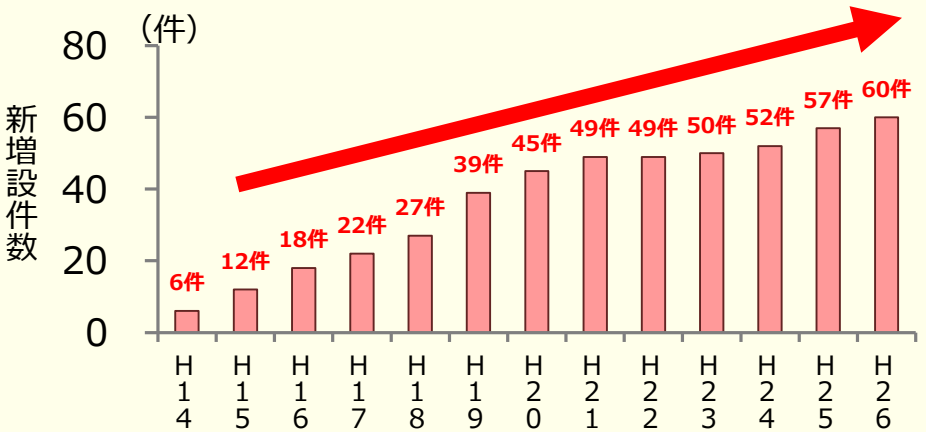



福島市西部地区：土湯、西、信夫、吉井田、吾妻

出典：福島市統計書

▼新設・増設した企業数の推移（福島市）
（H14からの累積）

企業立地が進み
平成１４年以降
６０社が増新設



# 県内有数のスポーツ施設へのアクセスが向上し、スポーツ交流拡大が期待(スポーツ振興支援)

■福島市西部にはスポーツ交流施設が集積、各施設で大規模なイベントが開催される県内有数のスポーツ交流拠点
■東京五輪の野球・ソフトボール競技の誘致を正式表明。サッカー出場チームの合宿誘致を検討。
⇒福島大笹生ＩＣの開通のアクセス向上効果により誘致活動を支援




**十六沼公園**
・・・スポーツ施設、遊具施設、自然公園からなる総合都市公園
・年間利用者数50万人以上(H26)
・**五輪サッカー宮城1次予選を想定し、福島での合宿誘致に向け調査検討予定**
・J3所属福島ユナイテッドFCの主なトレーニング場所
・スポーツ大会や自然イベントを開催

**ふくしまスカイパーク**
・・・民間試験空域を確保できる国内唯一の離発着場
・全日本曲芸飛行協議会などのスカイスポーツや地域イベントを開催
・研究開発やヘリ訓練の場としても利用
（航空機会社21社、民間企業8社、航空団体6団体、公共団体10団体以上）

**あづま総合運動公園**
・・・福島県内の主要なスポーツ施設が立地
◆あづま球場
・３０,000人収容。独立リーグ所属福島ホープスの主な試合開催球場
・**東京五輪の野球、ソフトボールを誘致を正式表明**
◆あづま陸上競技場
・20,000人収容。J3所属福島ユナイテッドFCのホームスタジアム
◆あづま総合体育館
・6,000人収容。各種スポーツの県大会やコンサートなどで利用





